

令和4年度



# 東明小だより

第1号 令和4年4月7日（木）

笑顔の“もと”を育む ～ご入学、ご進級 おめでとうございます～

校長 奥村 哲也

爛漫と咲くサクラ、そして咲きこぼれるパンジーが、新年度の始まりを祝っているかのようです。

お子さんのご入学、ご進学 おめでとうございます。37人の新入生を迎え、全校児童219人で令和4年度の東明小学校の歩みが始まりました。

本校の今年度の学校教育目標は、「かしこく 心豊かで たくましい子の育成」です。この先、何が起きるか見通すことや将来の変化を予測することが難しい時代だからこそ、どのような状況にあっても、自ら考え、仲間と共に、たくましく生き抜く力が必要になります。問題解決や願いの実現に向けて主体性を発揮し、仲間と協力して、最後までやり切る力を育てていきたいと考えています。合言葉は、「す・な・お」。「すすんで」「なかまと」「おわりまで」の頭の一文字を並べたものです。



さて、可児市は、この4月1日に市制40周年を迎えました。「#可児市40～10年後につなげよう市民の笑顔～」をテーマに、様々なプロジェクトが進められています。そうした中、学校教育では、「笑顔の学校づくり」を目指し、具体の姿を次のように描いています。

「可児市の『笑顔の学校』づくりにおいては、問題解決能力やコミュニケーション能力、学校を誇りに思う心やふるさとを愛する心、自己肯定感や自己有用感等の資質や能力、心情が生まれ、それらが“もと”となり、子どもたち一人一人の輝く笑顔が生まれています。『笑顔の学校づくり』で育まれる資質や能力、心情は、今の笑顔だけでなく、一人一人の未来の笑顔につながると思います。これらの資質・能力、心情を『笑顔の“もと”』とし、自分には今だけでなく未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』があることを、一人一人が自覚していけるようにします。」（可児市の学校教育の方針と重点より）

「進んで 仲間と共に 終わりまでやり遂げる」という経験を積み重ねていくことで、「笑顔の“もと”」が育まれます。そして、やり遂げた満足感や充実感、一人一人の「笑顔の“もと”」の自覚につながることでしょう。職員一同、「笑顔いっぱい学校」をめざして精一杯努めてまいります。どうぞよろしく申し上げます。